●もくじ●

序文　*i*

第Ⅰ部
書く技術

第Ⅰ部のはじめに……*3*

第1章　なぜピラミッド構造なのか？……*5*

ピラミッド型へ並べ替える　*6*
　マジックナンバー7　*7*
　論理を述べる必要性　*9*
トップダウンに配列する　*10*
ボトムアップで考える　*13*

第2章　ピラミッドの内部構造はどうなっているのか？……*19*

縦の関係　*20*
横の関係　*24*
導入部のストーリー展開　*25*

第3章　ピラミッド構造はどうやって作るのか？……29

トップダウン型アプローチ　30
ボトムアップ型アプローチ　36
初心者への注意　42

第4章　導入部はどう構成すればいいのか？……47

ストーリー形式　47
　なぜ，ストーリー形式なのか？　48
　「状況」の記述をどこから始めるか？　50
　「複雑化」とは何か？　51
　どうしてこの順序なのか？　54
　「キーライン」とは？　56
　導入部の長さは？　58
　キーラインに導入部は必要か？　63
いくつかの共通パターン　67
　方針を与える　68
　支出の承認を求める　70
　「ハウツー」を説明する　72
　選択肢の中から決定する　74
いくつかの共通パターン……コンサルティングの場合　76
　提案書　77
　進捗状況報告書　78

第5章　演繹法と帰納法はどう違うのか？……81

演繹的理由づけ　82
　その仕組みは？　83
　いつ使うべき？　85
帰納的理由づけ　91
　その仕組みは？　93
　どう違うのか？　94

第Ⅱ部
考える技術

第Ⅱ部のはじめに……101

第6章　ロジックの順序に従う……105

時間の順序　108
　原因と結果を区別する　109
　根拠となるプロセスを明らかにする　112
構造の順序　114
　構造を作る　115
　構造を書き表わす　117
　構造の変更を提案する　118
　構造の順序を用いて考えを明らかにする　120
度合いの順序　124

正しい分類グループを作る　124
不適切な分類グループ化を見つけ出す　127

第7章　グループ内の考えを要約する……133

白紙の主張を避ける　134
行動の結果を述べる　138
具体的な言葉を使う　140
行動のレベルを階層化する　147
直接的に要約する　151
各結論に類似点を見つける　153
構造上の類似点を見出す　155
より深い関連性を見出す　157
帰納的なジャンプをする　160

第Ⅲ部
問題解決の技術

第Ⅲ部のはじめに……167

第8章　問題を定義する……171

問題定義のフレームワーク　173
要素を配置する　173
導入句へ変換する　175
問題を配置する　179
スタートポイント/オープニング　180
懸念される出来事　182
R1（望ましくない結果）　183
R2（望ましい結果）　184
疑問を見出す　185
導入部へ展開する　186
実際の例　192

第9章　問題分析を構造化する……195

データ収集から始める　196
診断フレームワークを作る　198
構造を図式化する　199
因果関係をたどる　201
有りうべき原因を分類する　206
フレームワークを利用する　211
顧客の問題　212
分析のアプローチ　213
ロジック・ツリーを作る　215
解決の選択肢を明らかにする　215
グループ要約の欠陥を探す　218
課題分析を実践する　224
歴史　224
誤解　228

第Ⅳ部
表現の技術

第Ⅳ部のはじめに……*233*

第10章　文書構成にピラミッドを反映させる……*235*

構造を強調する　*236*
ヒエラルキー型見出し　*238*
ポイントのアンダーライン　*242*
数字インデックス　*245*
インデントによる右寄せ　*247*
ドット・ダッシュの箇条書き　*249*
グループ間の移行を助ける　*251*
ストーリーを語る　*251*
前を振り返る　*253*
章や節を要約する　*255*
全体を締めくくる　*256*
次のステップを述べる　*258*

第11章　文章表現にピラミッドを反映させる……*261*

イメージを創り出す　*263*
イメージを言葉にコピーする　*266*

追補A　構造なき状況下での問題解決……*271*

分析的問題解決における不明推測法　*272*
科学的問題解決における不明推測法　*274*
仮説を創り出す　*274*
実験を考案する　*275*

追補B　本書で述べた重要ポイントの一覧……*279*

監修者あとがき　*285*

訳者あとがき　*287*